

カリキュラムを通した学習成果の評価を考える

竹中 喜一（近畿大学 IR・教育支援センター 准教授）

講師略歴

専門は高等教育論および教育工学。特に大学教職員の学習と研修転移に関心を寄せている。民間企業、関西大学事務職員、愛媛大学特任助教、講師、准教授としてのFD、SD、教学IR等の業務を経て、2023年より現職。並行して2023年より山梨県立大学特任准教授としてカリキュラムを通した学習成果などに関する教学マネジメントアドバイザーも務める。2026年より日本高等教育開発協会会長。博士（人間科学）。主な著書に『シリーズ大学教育の質保証2 学習成果の評価』（編著）、『大学SD講座4 大学職員の能力開発』（共編著）、『大学FD入門』（分担執筆）などがある。

プログラム概要

学習成果の評価というと、授業科目の最後に行う試験やレポートによる評価を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、それだけではありません。在学期間中トータルで何がどれだけできるようになったか、つまりカリキュラムを通した学習成果の評価も含まれます。それでは、カリキュラムを通した学習成果にはどのような方法があるのでしょうか。学生の学習や教員の教育活動、大学としての教育の内部質保証にどのように活用できるのでしょうか。本プログラムではこれらの問いについて、学習成果の評価方法に関する講義とグループワークを通して考える機会を提供します。講義部分では、卒業論文等やディプロマ・ポリシーを評価するルーブリックや、ディプロマ・ポリシー到達度の評価とレーダーチャートによる表示方法などを取り扱う予定です。

準備物・事前課題

1. 所属組織（全学または特定の学部等）のカリキュラムを通した学習成果の評価で何を行っているかについて、アセスメントプラン等で確認しておいてください。
2. 当日のグループワークで共有予定です。
3. 基礎的内容を学ぶ参考書として、竹中喜一編著(2023)『学習成果の評価』（玉川大学出版部）を取り扱います。
4. 同書の1,2,4,5,6章を事前にご確認いただくと、当日の内容の理解が進みます。

主な受講対象者

カリキュラムを通した学習成果の評価について基礎的な内容や実践例を知りたい教務・学務系の職員や教務委員など学部等のカリキュラムに関わる教員の方を主な受講対象と想定しています。

到達目標

1. カリキュラムを通した学習成果を評価する目的を説明することができる
2. カリキュラムを通した学習成果の評価方法について、間接評価と直接評価によるものをそれぞれ説明することができる
3. カリキュラムを通した学習成果の評価を教育改善や学習促進に活用する方法を検討することができる